

# 果実・葉中における放射性セシウム濃度の経年変化

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の分布状況の把握

研究課題名 果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握

担当者 小松健太郎、高橋堯之、穴澤拓哉、佐藤寛人

## I 新技術の解説

### 1 要旨

東京電力福島第一原子力発電所事故後の果樹園における放射性物質の分布状況を把握するため、主要果樹の成熟期の果実及び葉の放射性セシウム濃度を測定した。果実及び葉の放射性セシウム濃度は樹種により異なるが事故後2年目以降から漸減し、以降低い値で推移している。

- (1) 果樹研究所（福島市）におけるモモ「あかつき」、ナシ「幸水」、リンゴ「ふじ」、ブドウ「巨峰」、カキ「蜂屋」の果実中放射性セシウム濃度は各樹種ともに事故後2年目以降漸減し、低い値で推移している。
- (2) 葉中放射性セシウム濃度も同様に各樹種ともに事故後2年目以降漸減し、低い値で推移している。

### 2 期待される効果

- (1) 果樹における果実・葉中放射性セシウム濃度の経年変化の特徴を把握することができる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 果樹研究所内のモモ18～23年生（2011～2016年）、ナシ44～55年生（2011～2022年）、リンゴ40～51年生（2011～2022年）、ブドウ18～27年生（2011～2020年）、カキ5～16年生（2011～2022年）の調査結果である。
- (2) 調査樹は樹体洗浄を実施していない。
- (3) 果実・葉中放射性セシウム濃度は、ほ場や周辺環境等により異なる。

## II 具体的データ等

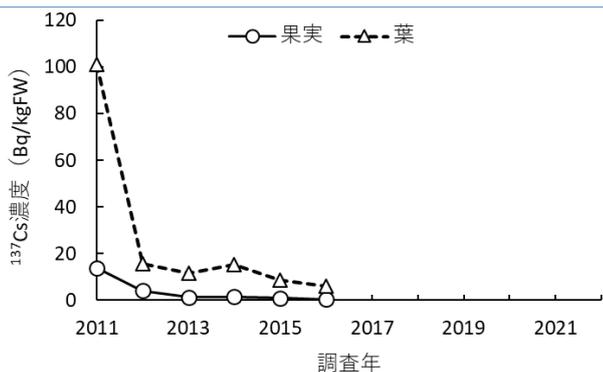


図1 モモ「あかつき」果実及び葉中<sup>137</sup>Cs濃度の推移  
(果樹研究所)

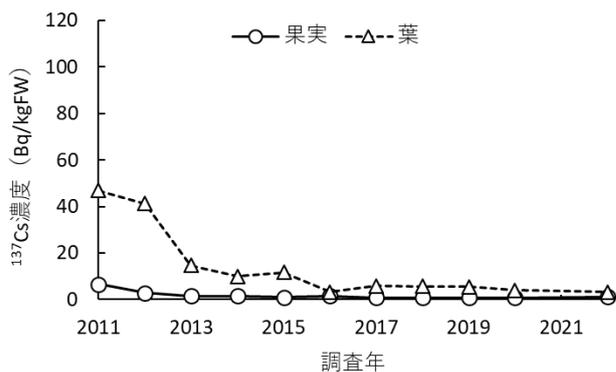


図2 ナシ「幸水」果実及び葉中<sup>137</sup>Cs濃度の推移  
(果樹研究所)

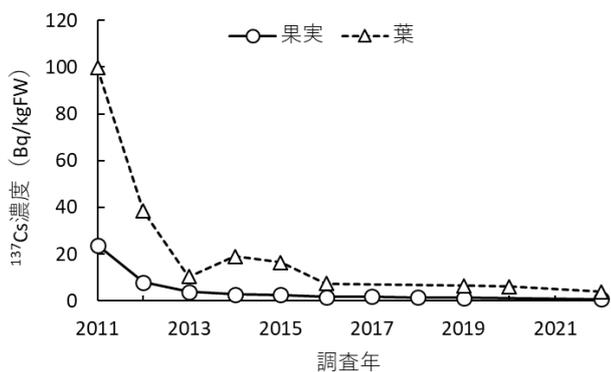


図3 リンゴ「ふじ」果実及び葉中<sup>137</sup>Cs濃度の推移  
(果樹研究所)

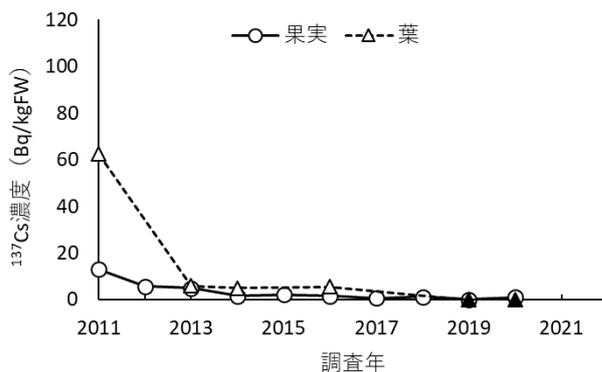


図4 ブドウ「巨峰」果実及び葉中<sup>137</sup>Cs濃度の推移  
(果樹研究所)

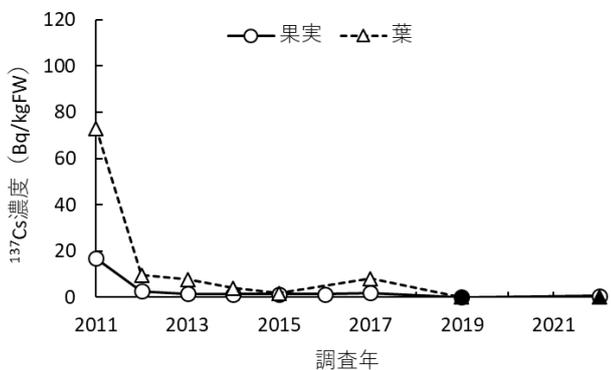


図5 カキ「蜂屋」果実及び葉中<sup>137</sup>Cs濃度の推移  
(果樹研究所)

※図4、図5の●、▲はND（検出限界値未満）。

## III その他

### 1 執筆者

小松健太郎

### 2 実施期間

平成23～令和4年度

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 渡邊ら、果樹の葉及び果実中セシウム<sup>137</sup>濃度の経年変化、  
令和2年度放射性関連支援技術情報